

令和3年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	大学・学校・地域連携型の学習支援活動のモデル事業
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 准教授・堀健志
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) <ul style="list-style-type: none"> ・上越市立城西中学校 学校長 五十嵐守男 ・同校区内南本町小学校児童の保護者 遠藤 貴子 ・いちょう食堂の会 会長 金子 光洋 ほか
4 事業の趣旨・目的	本事業は、塾に通わない子どもの学習を支援するための活動を、大学教員と学生が学校や地域住民と協力し合いながら地域に根ざしたかたちで展開することを試みるものである。こうした活動を学生による無償のボランティア活動によって維持しようとするれば、志のある学生に、生活のためのアルバイトをするか、それとも、子どもや社会の役に立つボランティアをするかという二律背反的なジレンマを突きつけることになりかねない。そこで、学習支援活動を本学の地域貢献事業として位置づけ、多少なりとも有償化することで、志のある学生たちの参加を阻んでいる障壁を少しでも取り除き、地域に根ざした学習支援活動の安定的な継続を狙っている。
5 事業活動報告	<p>いちょう食堂の会および上越市立城西中学校・南本町小学校と連携しながら、合計 23 回の学習会を開催した。</p> <p>5月 南三世代交流プラザで学習会の開催 (3回) 6月 南三世代交流プラザで学習会の開催 (4回) 7月 南三世代交流プラザで学習会の開催 (5回) 8月 南三世代交流プラザで学習会の開催 (1回) 9月 南三世代交流プラザで学習会の開催 (1回) 10月 南三世代交流プラザで学習会の開催 (3回) 11月 南三世代交流プラザで学習会の開催 (4回) 12月 南三世代交流プラザで学習会の開催 (2回)</p> <p>昨年度に引き続いて、今年度も新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。学生の課外活動の禁止・自粛が大学より指示されたことにより、8月～9月および1月以降、実施を見送らざるをえなかった。また、城西中学校における実施は、同校の判断により、感染防止の観点にもとづいて見送られることとなった。</p> <p>また、ボランティアに参加する学生の啓発のために、書籍や映画 DVD を用いて、子ども支援のありかたについて多様な角度から検討する機会を提供した。</p> <p>なお、学習会の実施にあたっては、開催前後にアルコールを用いてテーブル等の消毒を行うとともに、小学生への菓子類の配布(学生による私費負担)は、学習会の終了後に限定するとともに、会場での飲食の自粛を要請した。</p> <p>※事業の実施風景の撮影については、本事業の連携先となっている「いちょう食堂の会」の要請にもとづいて自粛しているため、写真を掲載することができない。</p>

6 本事業で得られた成果	<p>本事業として位置づけられることで、学習支援のボランティア活動が有償化されることとなり、その結果として、学習会を継続的かつ安定的に開催することが可能になっている。その結果として、城西中学校および南本町小学校学区に居住する、非通塾児童・生徒の学習を支援することができるに加えて、参加する子どもたちにとって、大学生が身近なロールモデルとなる可能性があり、健全育成上のメリットがあると考えている。他方で、この取り組みに参加している学生たちにとっても、子どもたちとの交流を通じてのみならず、コロナ禍におけるこの事業のあり方をめぐる地域住民との意見交換を通じて、多様な考えや意見に触れることができおり、教員養成の観点からも豊かな経験がもたらされていると評価できる。</p> <p>なお、今年度は、南本町小学校との連携を深め、PTA総会において本事業についての説明を行う機会を得た。その効果は判然としないが、初めて参加した子どものなかに、保護者に言われたことを参加理由として挙げる者がいたため、多少なりとも効果があったと考えられる。</p>
7 その他(成果物等の名称)	